

シスアド取得までの過程

2000H039 木俣 志穂

まず、どこからどう始めていったらいいのだろうか…。何を見てもどこを見ても、難しそうな言葉ばかりで、悩んでしまいましたが、始めは目を慣れさせるのも兼ねて、『初級シスアド完全合格教本』(新星出版社)というテキストの右下に記載されているチェック問題を、最初のページから解いていきました。一項目ずつ目を通し、太字等を暗記し、そしてチェック問題を解いていく、そのような流れで進めていきました。チェック問題を解いている際にわからない言葉が出てきた場合は、その都度戻って調べ、わからない言葉を少しでもなくしていくように心掛けて進めていきました。そしてチェック問題に加えて、演習問題も解いていきました。チェック問題では主に言葉の意味を答える問題が多いですが、演習問題は試験に似た問題が多く出てくるので、各章でやってきたことがどのくらい覚えられているか試すことができました。やり始めは、意味がわからない問題ばかりでしたが、各項目の解説を読みながら、答えを覚えてしまうくらい何回通りも解いていきました。シスアドの基本的な知識を身に付けるには、このテキストの問題から始めていくのが一番の方法だと思いました。取得できた今、自分がしてきたことを振り返ると、このテキストで用語を覚えていくことが、まず、第一段階だと思います。このテキストは比較的やさしい問題ばかりだったので、特に語意などをしっかり抑えて、この段階のうちにしっかり基礎を固めていきました。

『初級シスアド完全合格教本』を一通り覚えた後は、『楽々合格 初級シスアド試験』のCD-ROMを解いていきました。このCD-ROMはテキストに比べると、すぐに計算問題も出てくるのでとても難しく感じました。解説がやや少なかったので、わかる問題から確実に解いていくようにしました。このCD-ROMは二回通りくらい解きました。一回目はわからない問題もとりあえず答えを覚えて先へ先へと進めていき、二回目は、一回目でも二回目でも解けなかった問題を、テキスト、解説を読みながらノートにまとめていきました。初期段階として『初級シスアド完全合格教本』、『楽々合格 初級シスアド試験』のCD-ROMを使っての進め方がBESTだと思いました。そして、この2つの教材でたくさんの時間をかけて、コツコツと取り込んでいくことが大切だと感じました。

これらの2つの教材で、ある程度シスアドの内容を把握できた上で、第二段階として、『初級シスアド完全解答』(オーム社)を解いていきました。この問題集は過去10回分の試験問題が収められていたので、実際、過去に出題された問題が多く出題される最近の試験の傾向においては、最適の問題集であると思いました。平成13年春の試験では午前の問題の3割が過去に出題された問題でした。この傾向を踏まえて、3割は確実にとるために、全ての問題の答えを覚えてしまうくらい、この問題集を何回通りも解いていきました。この過去問題集を何回分か解いていくと、試験問題の構成や、自分がどの分野が不得意なのかを掴むことができます。どの分野を集中的にやったらよいか、この問題集を解くことで把握できることも考えると、この問題集はメリットがたくさんあると思います。

この問題集を一通り解いたところで、自分がどんな問題を間違えるのか分析をしました。まず始めに計算問題です。私が特に苦手としていた問題は、データの転送時間やディスクの容量、プリンタの利用率を使った問題などです。それぞれ計算の仕方・パターンがあるので、それを

しっかりと覚えて、数字や求めるものが変わっても、応用できるように力をつけていきました。次に SQL 文の問題です。始めはまったくわからなくて、納得のいく解釈ができませんでした。でも何回もいろんな問題をといていくと、自然とコツがつかめるようになりました。他にも苦手とする問題が多々ありましたが、やはり回数を重ねることが得意とする問題へと変えていく一番の近道だと思いました。そして、『初級シスアド完全合格教本』や『楽々合格 初級シスアド試験』の CD-ROM では出てこなかった言葉もたくさん出てきました。試験で出されることも考えて、その都度しっかりと覚えていきました。

この『初級シスアド完全解答』で 8 割くらい内容をつかめてきたと実感できたところで、『直前初級シスアド試験』(ソフトバンク パブリッシング社)を解いていきました。このテキストはほとんど過去問ばかりなので、すらすら解けてしましますが、各項目ごと簡単に要点をまとめてあり、ちょっと忘れてしまった時にはすぐに調べることができます。そして本試験そっくりの模擬試験が 2 回分入っています。本試験約 3 ヶ月前発行なので、一回前の試験問題もしっかり分析した上で作られているので、最終の力試しには最適だと思います。

そして、今は情報化社会の発展がめまぐるしく、政府も IT 推進に力を入れているので、ネットワーク関連の用語やそれに伴うビジネス用語は必ず出ると思い、このテキストにまとめてあったネットワーク関連・ビジネス用語を暗記しました。その他にも受験に対するテクニックが数多く掲載されていたので、このテキストでの最終仕上げは効率の良い方法だったと思います。このテキストは自分で選んで購入したのですが、過去問題を何度も解いていけば自分の苦手な部分が把握できるので、それに対応した問題集を買うことが、実際自分がその方法で購入してみても、一番適切な方法だったと思います。

最後に午後の問題ですが、これも、『初級シスアド完全解答』の過去問を何度も繰り返し解いていきました。午後の問題も午前と同じで、繰り返し解いていけばどんな問題がでるのか大まかに把握することができ、自分の苦手分野を集中して練習することができます。午後の問題はやはり根気よく取り組むことが大切だと実感しました。まず始めに設問を読み、その後問題を読み、そして設問を解いていく、という流れで解いていきました。私は文章を読むことが苦手ですが、絶対に諦めないことが合格への道だと思いました。

初めはテキストを開くと、聞き慣れない、見慣れない横文字がたくさん目に飛び込んできて、これから莫大な量を覚えていかなければならないのか、そう考えると先が思いやられる気分でした。でも、少し考え方を変えてみました。勉強をする、丸暗記をするという姿勢でやるのではなく、自分が今まで知らなかった知識を身に付けていこうという姿勢でやってみたら、少し気持ちが楽になったのを感じました。そして、新しく出てきた言葉が、実際自分の身の回りにあるパソコンではどの部分にあたるのだろうか、そのように考えていけば、これはこういう仕組みになっていたんだなあと、新しい発見ができ、楽しく進められました。確かに勉強には変わりないのですが、気持ちの入れ方からも、工夫が大切かなと感じました。実際、ぎりぎりの線で合格できたので、もっともっと時間をかけるべきであったと思います。最低 100 時間と言われますが、やはりそのくらいの時間を費やすことは必要かなと、今振り返ってみてそう感じます。